



府食第916号
平成17年9月21日

食品安全委員会

委員長 寺田 雅昭 殿

遺伝子組換え食品等専門調査会
座長 早川 堯夫

遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する審議結果について

平成15年8月1日付け厚生労働省発食安第0801001号をもって厚生労働大臣から食品安全委員会に対し意見を求められた「ワタ281系統とワタ3006系統を掛け合わせた品種」の安全性について（ダウ・ケミカル日本株式会社）の審議結果を別添のとおり報告します。

遺伝子組換え食品等評価書

ワタ 281 系統とワタ 3006 系統
を掛け合わせた品種

2005年9月

食品安全委員会 遺伝子組換え食品等専門調査会

〈審議の経緯〉

平成15年8月1日

厚生労働大臣から遺伝子組換え食品等の安全性の審査に係る食品健康影響評価について要請、関係書類の接受

平成15年8月7日

第6回食品安全委員会（事項説明）

平成17年9月12日

第31回遺伝子組換え食品等専門調査会

平成17年9月21日

遺伝子組換え食品等専門調査会座長から、食品安全委員会委員長へ報告

〈食品安全委員会委員〉

委員長 寺田雅昭

委員長代理 寺尾允男

小泉直子

見上彪

坂本元子

中村靖彦

本間清一

〈食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員〉

座長 早川堯夫

座長代理 澤田純一

五十君静信

池上幸江

今井田克己

宇理須厚雄

小関良宏

遊谷直人

手島玲子

丹生谷博

日野明寛

室伏きみ子

山川隆

山崎壮

渡邊雄一郎

「ワタ281系統とワタ3006系統を掛け合わせた品種」に係る食品健康影響評価に関する審議結果

申請品種名：「ワタ281系統とワタ3006系統を掛け合わせた品種」

性 質：チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性

申 請 者：ダウ・ケミカル日本株式会社

開 発 者：マイコジェン・シード／ダウ・アグロサイエンス社

1. 申請品種の概要：

申請品種については、チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性の形質が付与された2系統を従来からの手法で掛け合わせたものである。掛け合わせる前のワタ281系統、ワタ3006系統の各系統については、平成17年8月18日に食品安全委員会における食品健康影響評価は終了しており、いずれもヒトの健康を損なうおそれはないものと判断されている。

2. 食品健康影響評価結果：

- ① 挿入された遺伝子によって宿主の代謝系に影響なく、チョウ目害虫抵抗性及び除草剤耐性の形質が付与されている品種同士の掛け合わせである。

ワタ281系統及びワタ3006系統のそれぞれに導入された *cryIF* (synpro: synthetic products の略。以下同じ。) 遺伝子及び *cryIAC* (synpro) 遺伝子により産生される CryIF (synpro) タンパク質及び CryIAC (synpro) タンパク質は酵素活性を持つことは知られておらず、また、両系統に導入された改変 *pat* 遺伝子により産生される PAT タンパク質は、グルホシネートをアセチル化する酵素であるが、高い基質特異性を有しているため、植物代謝系に影響を及ぼす可能性はないと判断される。したがって、掛け合わせにより、発現タンパク質が植物の代謝系に影響を及ぼす可能性はないと判断される。

- ② 亜種レベル以上の交配ではない。

ワタ281系統及びワタ3006系統は、いずれも *Gossypium* 属 *hirsutum* 種であり、同属種である。

- ③ 摂取量・食用部位・加工法に変更はない。

ワタ281系統とワタ3006系統と、それらを掛け合わせた品種において、摂取量、食用部位、加工法等の利用目的ならびに利用方法に変更はない。

以上、①～③の結果から、「ワタ281系統とワタ3006系統を掛け合わせた品種」については、「遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方」(平成16年1月29日 食品安全委員会決定)に基づき、安全性の確認を必要とするものではなく、その安全性に問題はないと判断される。